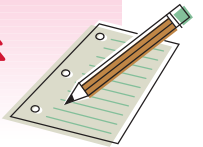


## 「地域住民の意識調査アンケート」集計報告

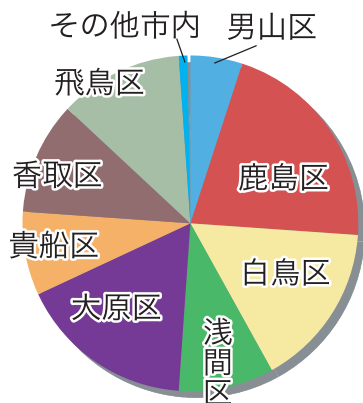


7月に行いました「地域住民へのアンケート調査」の集計が終わり、データがまとまりました。アンケートにご協力頂きありがとうございました。この月報にて随時結果を報告していきます。あわせて区内で回覧していただけるような冊子もご用意します。ご一読下さい。

### ご回答者についてお尋ねします。

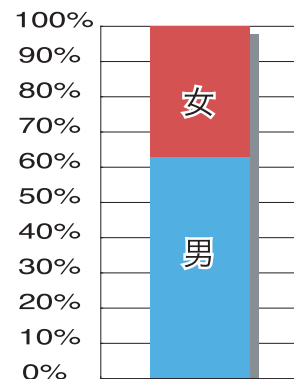
#### Q. あなたのお住まいの区は？

A. ほぼまんべんなく八区にまたがりご回答をいただきました。



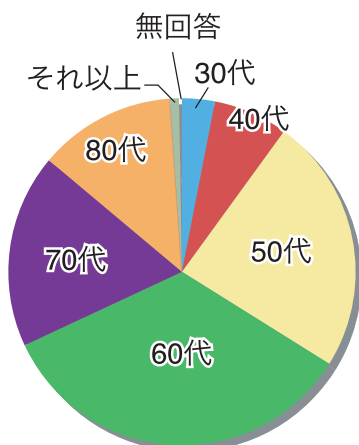
#### Q. あなたの性別は？

A. 男女比率はだいたい男：女が2：1です。



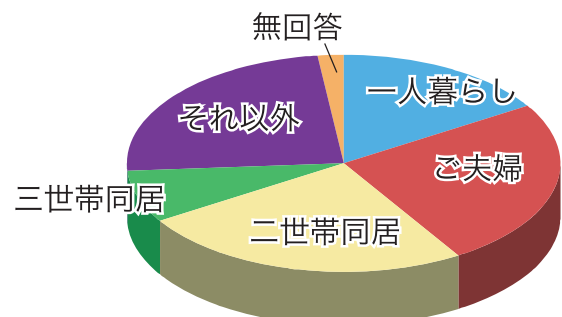
#### Q. あなたの年齢は？

A. やはり、50代、60代、70代が多く、それだけで3/4を占めます。西組の縮図ですね。



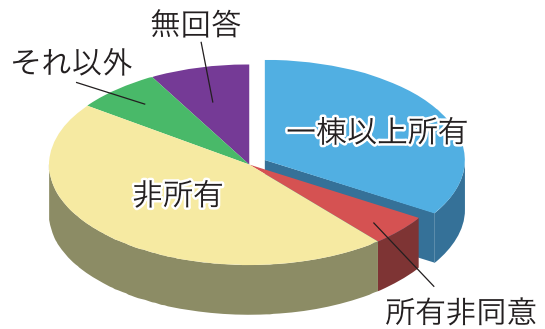
#### Q. あなたの家族構成は？

A. ご夫婦、二世帯同居が多く、約半分を占めます。続いて一人暮らしが続きますが、「それ以外」も1/4程度あります。



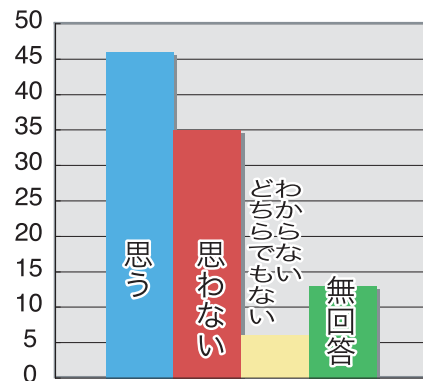
## Q. 伝建物を所有していますか？

- A. 所有していない方が約半数で、所有し、かつ登録している方が1/3です。所有しているが同意、登録はしていないという方も数人いらっしゃいます。

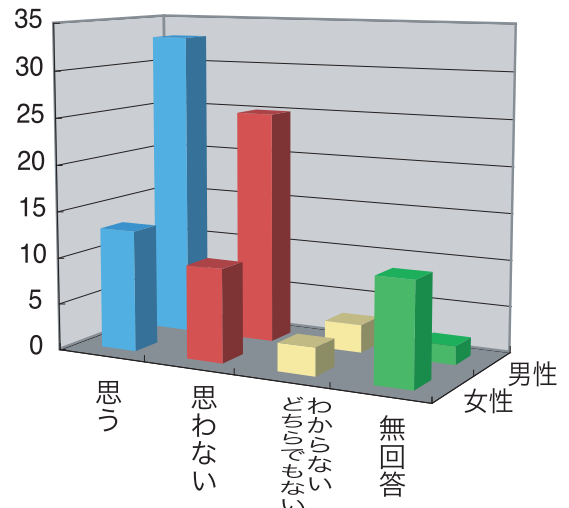


## Q. 重伝建に指定されてよかったと思いますか？

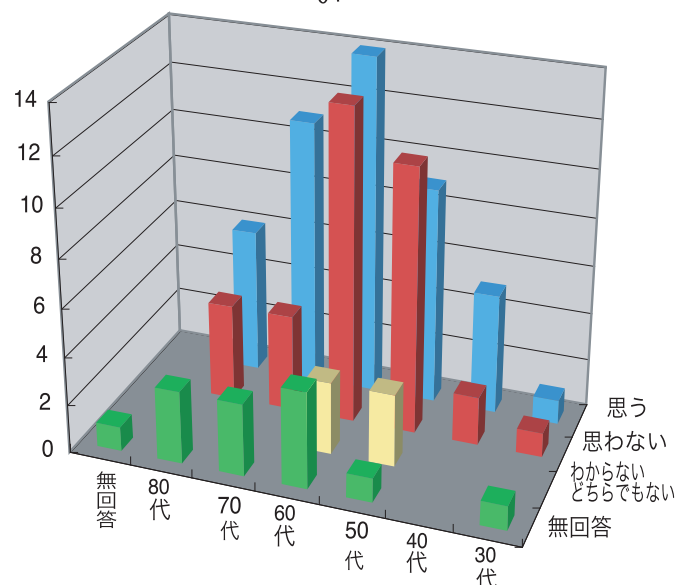
- A. この問いはとても大切ですので、いろんな切り口から分析してみました。  
 まず、もっとも単純に総数だけ見ていると、「思う」つまり、重伝建になってよかった。という方が46名、「思わない」つまり重伝建になったことをよく思っていない方が35名となりました。  
 もちろん「わからない、どちらでもない」という方も若干名いらっしゃいますが、サンプルは100人しかありませんが、「思う」が「思わない」を10名以上上回りました。



続いて、男女の別で重伝建指定について分析しました。  
 女性は「無回答」の多さが目立ちますが、これはやむなしということでしょう。



続いて、年代別に見てみることにしましょう。  
 「思わない」方は、50代、60代に突出して多く、「思う」方は、60代、70代に多くなっています。逆に50代は「思う」比率が少なめになっています。40代を見てみると、「思う」方が「思わない」方よりずいぶん多くなっており、30代くらいの若い世代が重伝建に将来を期待しているのか、それとも現状を理解しかねているのか、いずれにしても前向きな姿勢を見て取ることができます。  
 同じことは70代、80代にも言え、70代については、「思う」人が「思わない」人を圧倒的に引き離しています。年代別で見ると、50代だけが「思わない」の方が多く、その他の世代は「思う」のほうが多くなっている傾向があります。  
 40代、50代に「わからない」「どちらでもない」回答があるのは、制度についての理解が少ないか、三年では見極められないという慎重意見の現れと思われれます。



(次号に続く)

## 投稿コーナー



# むかし まち さん さく 昔 町 散 策

ふる まち よし お  
古 町 好 夫  
(小浜市在住・75歳)

人はどうしても年を重ねてくると、心を癒してくれる場所を求めるものだと思います。特に都会に住んでいる方は、時には古い町並みを歩いて目の保養をし、おいしいものを食べて、楽しみたくなるようです。

当然『町』は、そこに住む人達の生活の場ではありますが、その歴史・文化を理解して、守っていかねばならないのではないのでしょうか。そこへ訪れる人たちとの交流をする機会が多くなると、おのずから町も活性化してまいります。私も小さな町を歩いていて、土地の人に軽く会釈をされますと、なにかほっとする気持ちになります。



べんがら格子が今もなお残る三丁町の風景

久しぶりに三丁町を歩いて、おこがましいことですが、特色を生かした修理がなされており、その上案内看板や休み所が増えているのがいいと思いました。

ある所で新聞社の「古い町並みを歩いた方へのアンケート」結果が掲示されているのを見ましたら、古い町への訪問者の大部分は、その土地の歴史・文化にふれ、木の温もりを感じながら散策するのが一番こころが和らぐとなっていました。私の記憶では確か小浜西組もベストテンに入っていました。

町並みは成り立ちで、それぞれ特色があると思います。その特色をどのように、昔あった姿で残しているからだだと思います。



うだつ  
卯建のある町で有名な徳島脇町の町並み

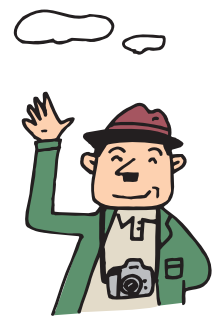
うだつ  
卯建のある町で有名な徳島脇町は、地域で50くらいあるとのことですが、卯建は最初、防火のために作ったものが、いつのまにか財を成した人達の象徴となり、競うようになりました。卯建がずらっと並んでいるのは豪華ですが、私は同じ卯建の町である岐阜の美濃は19あるといわれ、徳島脇町の半分にも満たないのですが、町全体のバランスが



とれているように思います。ほんとうに富を得た豪商と普通の家（かつては板葺き）が混在し、又卯建の時代毎の変遷も判り易くなっており、庇の上に火伏せの神を祀った神棚を安置されて、本来の姿が残されていると思います。ちなみに徳島貞光町(現・徳島県つるぎ町貞光)に二層の卯建があり、それに鍔絵が施されており一見の価値があると思います。

これからは高齢化社会となりますと人はますます癒される所が欲しくなると思います。先人からの遺産を大事に育てて、訪れる人々と触れあいながら、若い人も住みやすい、生き生きとした町にしたいものです。住民の皆さんでこの小浜西組（お初が歩いた袖壁のある町）が掘り起こされ、一步一步築き上げていかれることを期待して終わりにしたいと思います。

ペンネーム古町さんは5年程前に“歴史のある町並みを散策して”と題して町並み月報に投稿をくださっており、現在も他府県の重伝建地区へ足を運ばれ、散策を楽しんでおられます。



## 小浜西組町並み協議会からのお知らせ

■ 平成23年度重伝建補助事業物件をお知らせします。

小浜市小浜鹿島	高鳥忠彦様	主屋、付属屋、土蔵	修理
小浜市小浜鹿島	河原英二様	付属屋 土蔵	修理
小浜市小浜飛鳥	谷口勝章様	主屋	修理

以上3名の方が補助金を活用して、家屋や蔵を修理しています。  
我が家も補助金を活用して修理を…と思っている方は、文化課野瀬さんに相談してください。

■ 町並み保存資料館では『趣味の手芸と押絵展』を平成23年9月10日(土)～9月24日(土)まで開催しました。大勢の方に来館いただきましてありがとうございました。出展していただきました梶原様、山本様、溝上様に御礼申し上げます。



又、いろんな方々に町並み保存資料館を利用していただきたいと思います。(無料)  
御希望の方は53-3443(町並み保存資料館まで)連絡ください。

